





杉 浦 敏 議員

コミュニティバスは交通弱者救済の視点で運営を

問

1億3千万円の大規模事業となるコミュニティバス
【関連記事11面・】について聞く。

 11年から運行していた巡回福祉バスに代わり、6月21日より運行を開始した公共バス。従来と比べ①運賃有料化②ダイヤ・ルートの抜本的改正③バス4台↓5台に増車④運行時間拡大と年中運行1等を導入し、路線バスの色を強めた。

(1) 巡回福祉バスのバス停は99カ所だが、コミュニティバスのバス停はいくつか。
(2) (バス停の)竹田から次のバス停まで行きは1分、しかし帰りは1時間29分もかかる。十四山(地区)を走る東部ルート)は循環型で往復になっていない。
また廃止するバス停から存続するバス停まで、1、2分で到着できる所もたくさんある。工夫すれば復活が十分に可能ではないか。

(3) 75歳未満の一人暮らし高齢者や低収入の障害者等に、運賃減額や無料化などに、柔軟性を持たせた対応をすべきではないか。

(4) (経済困窮者への)地デジチューナーの無償配布は、国がシステムを変えたのだから国が面倒を見ている。今回も、市が有料化した、

それで困る人が出てくれば市としてリーダーシップを取るべきではないか。

(5) 交通弱者を救済する視点がなければバスの意義がないと思う。
実際に使う人の声をできる限り反映していく姿勢をとってほしいがどうか。

アンケート調査を次に生かす

答 総務部長

(1) 71カ所である。
(2) ある程度の期間を見て、昨年同様に利用者等のニーズ調査を行い検証していく。その検証に基づき、運行計画を改善しながら23年度の変更などを行っていきたい。

(3) 隣接町村の運賃を参考とし、受益者負担を原則として決定された。

利用者の収入に係る減額、無料化は考えていないが、必要ならば他制度で救済されるべきと考えている。

(4) 基本は(大人)200円の運賃という大原則で進んでいきたい。

その中で今後評価検討を

していくべきだと考えている。

答 市長

(5) 運行を開始してからアンケート調査をし、次に生かしていくことを考えている。

実証運行で、さまざまな問題を整理していきたい。



▶ 6月から運行を開始したコミュニティバス